

水道事業者が抱える多くの問題を解決する

Water Supply Information Utilization System

水道情報活用システム

耐災害性

コスト削減

広域化の推進

セキュリティ担保

高度なデータ活用

▷ 水道情報活用システムとは? ▷▷

水道事業者が保有するデータに関する仕様を標準化するルールを定めたものであり、標準仕様書に準拠したアプリケーション・デバイス等で構成されています。システムを活用することによって、耐災害性・コスト削減・広域化の推進・セキュリティ確保・高度なデータ活用などさまざまなメリットが享受できます。

クラウド上での管理



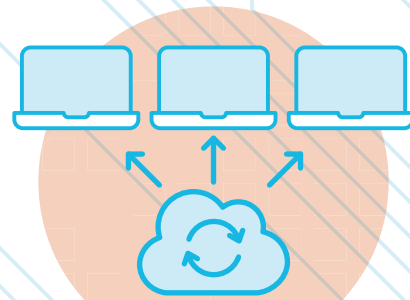
システムやデータは
クラウド環境で管理されます

データの標準化



データ項目等を規定することで
データを自由に活用できます

自由なアプリ選択



既存のアプリも標準化する
ことにより導入できます

導入時の初期コストに対して国が財政支援を行っています

▷ 水道事業の抱える問題とシステム導入のメリット ▷▷

職員数減少

データの規格等が標準化されるため、職員の経験を頼りに行っていた業務や、技術・知識の継承を効率化・システム化することができます。

施設の老朽化

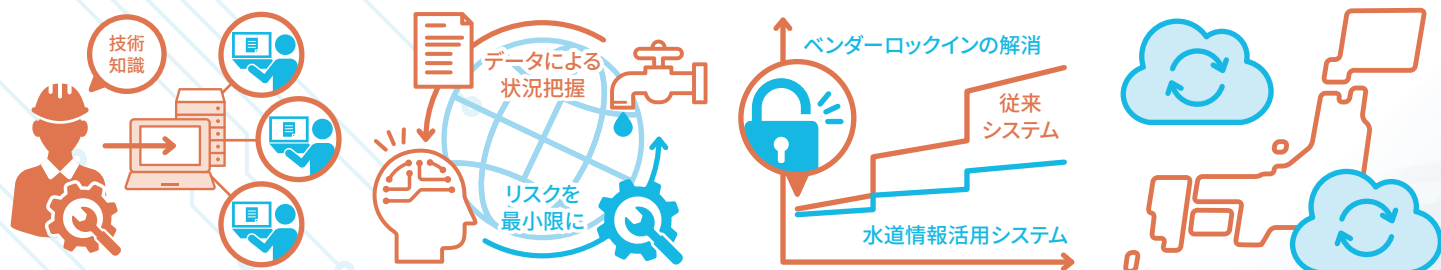
標準化されたデータにより、断水事故等の迅速な情報共有や、データを活用した漏水検知など、住民生活に与えるリスクを最小限に抑えます。

料金収入減少

ベンダーロックインの解消による適切な競争環境の実現や、柔軟性のあるクラウドサービスによるシステムの増減等、費用の適正化が可能です。

災害リスク

データは耐災害性の高いデータセンターで管理されており、災害時にはクラウド化された水道情報資産により効果的な受援体制が構築可能です。



▷ 導入が効果的と考えられる水道事業者等 ▷▷



1) 多数の異なるシステムを統合したい

設備機器構成や仕様がそれぞれ異なるシステムを、同じ仕様に基づくシステムに一元化することにより、業務の効率化が図られます。



2) 今後の広域連携の為の準備をしたい

関係する水道事業者等の水道施設情報を、容易に取り出して活用することで、広域連携を効率的に進めることが可能となり、改正水道法による広域連携の推進にも対応できます。



3) データを活用して管理の高度化等を目指したい

水道施設台帳の管理に関するシステムや運転監視データを利用して水需要予測を行うこと、各管理システムの情報を連携させて情報管理の統合を図ることなど、活用の幅が広がります。



4) 水道法で義務付けられる水道施設台帳の整備を行いたい

水道施設台帳の整備と電子化を一体的に実施することで、アセットマネジメント、将来の水需要等を踏まえた更新計画の策定や、他の水道事業者等との広域連携などに活用できます。



5) その他、業務の効率化を行いたい

システムの導入や更新の際に、仕様書の作成や発注手続きの簡略化、水道施設の維持管理に要するコストの削減など、さまざまな業務を効率的に行うことができます。

詳しくは HP にて
『事例集』『ガイドブック』
をご覧ください



■水道情報システム導入についての具体的な事例

□ <https://www.ipa.go.jp/digital/dx/suidou-case-study-guidebook.html>



■水道情報システムについての詳しい説明